

中学1年生
中学2年生

新しい学習評価

平成24年度から中学校で新しい学習指導要領がスタートしました。それに伴い、学習評価の観点が整理されるなどの見直しがありました。学習指導要領に示す内容が生徒一人ひとりに確実に身に付いているかどうかを適切に評価し、その後の学習指導の改善に生かしていくとともに此花中学校の教育活動全体の改善に結び付けていくことが重要であると考えています。また、大阪府教育委員会において、高等学校の入学選抜における調査書への「目標に準拠した評価」の導入が検討されております。これらの動向を踏まえ、今年度、中学1年生と2年生において「目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）」で子どもたちの学習活動を評価いたします。（中学3年生は従来どおりです）

Q：評価方法はどのように変わるのですか

A：現在、此花中学校では、子どもの学習理解が学習集団全体のどのあたりの位置にあるかで評価しています。（いわゆる相対評価）新しい学習評価「目標に準拠した評価」は、学習指導要領に定める目標に対する生徒一人ひとりの達成度を見る評価です。
（裏面「解説：目標に準拠した評価」を参照）

Q：家庭として、学校から評価を受けとったら、どのような対応をすればよいですか

A：生徒一人ひとりが、教科等の目標をどこまで達成したか示していますので、ご家庭では、受けとった結果をお子様と一緒にご覧いただき、よく達成できたところは褒めて伸ばしていただくように、課題があるところは、今後どのように学習していくかを一緒に考えるようにしてください。

解説：目標に準拠した評価

目標に準拠した評価の「目標」とは、文部科学省が示す学習指導要領にある「教科の目標」などのことです。例えば、中学校数学科には次のような「教科の目標」があります。

数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。

この目標を基に「各学年の目標」が設定されています。例えば、中学校第1学年数学科には次のような「学年の目標」があります。

(1) 数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることや方程式の必要性和意味を理解するとともに、数量の関係を法則などを一般的にかつ簡潔に表現して処理したり、一元一次方程式を用いたりする能力を培う。
【(2)～(4)は省略】

この学年の目標を基に、各学習内容において観点別に評価規準を設定し、授業を通して「観点別学習状況の評価」が行われます。そして、学年や学期、単元などのまとまりにおいて「観点別学習状況の評価」と、これを総合的に判断して捉えた「評定」が示されます。

解説：観点別学習状況の評価と評定

観点別学習状況の評価では、生徒の学習状況を分析的に捉えるために、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」などの観点別に評価します。例えば、中学校第1学年数学科の一部では、次のように評価します。

「A 数と式」 1章 1節 正の数と負の数		
評価の観点	評価規準	評価
数学への関心・意欲・態度	授業に集中し、積極的に参加し、板書をノートなどにきちんとまとめている	A+
数学的な見方や考え方	数の範囲を拡張し、反対の性質をもつ量を正の数・負の数使って考えることができる	A
数学的な技能	数直線上に表された正の数・負の数を読みとったり、大小関係を不等号を用いて表したりすることができる	C*
数量や図形などについての知識・理解	正の数、負の数、自然数などの意味を理解している	B

A+：十分満足できるうち特に程度の高くと判断されるもの
A：十分満足できると判断されるもの
B：概ね満足できると判断されるもの
C：努力を要すると判断されるもの
C*：一層努力を要すると判断されるもの

(「大阪市立此花中学校単元毎の観点別評価規準1年」より抜粋)

評定は、観点別学習状況の評価のまとめを基にして、総合的に判断して示すものです。これらの評価・評定は、通知表等に表記します。

詳しいことについては、学校（06-6468-7241 担当：西川）にお問い合わせください。